言靈名義考 五

和書門
類 二八四八一 號
函 九三 架
冊 二〇 七

内閣文庫
和書
類 二八四八一 號
冊 二〇
函 二〇七 架 一六

内閣文庫
番號 和 28481
冊數 20 (6)
函號 207 325

国立公文書館
National Archives of Japan

言葉名義考巻之五

世之部

万民　万代　万世　百代　百世　千世

八百万　神　人の世　枝　花

たち　花　長　蓋の世　家の世　末世

先の世　前の世　世の世　代　こ　ゝの世

上つ世　中つ世　あとつ世

世　よ　八俵金之夫張老新る之義時之詞。人百一世二十年上

寿の南上より。かたちとものの上迄。父子夫婦兄弟朋友俵金り

張九新りて一世を渡るよく世を（よ）と号く。

万代（よろづよ）の（が）八千代

の字の字より字を生ずるものゝ義を合すれば（ち）と称すべし。（の）
（ば）は通ずと云ハ紙也。夷の字をよめる訓ハ絶てなきなり。（ゆ）の字
（こ）ハ神祇也。数の字ハ神代より天下治り安きと云義也。（も）百の字
千の字（チヨ）百の字（モヽヨ）ハ数を云神代をそなへ云ハ物祭すべき字の長く久しく
らむるを宮殿なる也。百と云ハ子と云も百と云も同し物祭すべく
数の為ものゝ為ハ何すべ故也。るゝ縁を信ひて百多百と
ハ云也。八千の字とも。（や）ハ弥之略。八百の字とも。八百ハ百の上
ま取れ多る数を（ほ）と筆する也。五百又ハ百の内なるもいとり
神の字ハ神の神集ひまつるひく信のまひ一なるを七ゆりして云也。
人の字神の字の蔓へく。神武の時代よりこゝ有ることを人の字といふ。根の字

名四　一

さの字の（ち）上代の字の（ち）と同じ。天人の為より南ハ和也。老の字
の（ち）ハ老と云りの為より南を云也。雲の字ハ分も動御まく。世
後る業の安らゝ世と祭ものゝ云也。蓋の字ハ此嗚まく義
の知く蓋のめまそをたとくる也。の字ハ遠く云る清色名なるハ
ゆくと云斗の義会りてゆゆるゆし。元果ゆく定のなく結おを
義まなとゝ清安くもひくたゝ新く世よるゆのゝしるまを高よ
なとゝく延むる也。素の字ハ人の上よハ為てさなむ世と。麿定め量り
て云也。後の字ハ武世の後也。先の世ハ武世の先也。おの字武字ハ先ゝ
て住し字をさしゝ云也。字もさきの字と明めゝし。武世（こ）ハ細りよ
指之和。字指和を延くこのと云。今住字を細りよさして武世と云也。

[illegible] おの[illegible]成[illegible]後の[illegible]の[illegible]を合して[illegible]と云也。[illegible]今の世 上つ世

中つ世 あとら世 なとも云う。今の世ハ上つ世を封へて今と云也。

つ世中つ世の(つ)ハ助詞にて[illegible]と云義也。あとら世ハ可惜

と云義也。この物世と云義也。あとらの洲国ハ西北の義なり。

方 ハ形ちとなりて名ずく。方ハ活用也。されと名義ハ[illegible]なし。(う)ハ

天也。(ち)ハ地也。天地の生る形の如也。天地定まりて後万物出る。東

和名抄云天地之方なるゆえ形よりかしこと云。東 [illegible]日の向

[illegible]名義也。[illegible]。[illegible]を除く[illegible]日

いつくよ向ふと云義なり。やあむ。日向国ハ西国なれハ日より向ふ国と

云くへし。東より出る日を日の向と云へきものなれハ[illegible]日ハ[illegible]

方より始めて形ちを形ちしますものなれハ日むけあと云義をけあ

を(け)と約めて[illegible]ひむけしといふなり。むけハむき。むけの用法て

生物の形皮を去て本体を形ハす業也。[illegible]なるゆえ日の本

体の形れます方なれハ(け)と[illegible]方よりもまを上生殺らとてひむ

けといひ[illegible]方を作る方なれハ(し)と約ひさらふ。(む)を略おくひ

けしといふなり。日の[illegible]より陰生殺る方を作ると云義となりて[illegible]

義さやうなりこハ[illegible]ひよれるおをうなくいひ出さるないふ行む

向の特用をむけと開りて云も不審也。日向の国名日むけと活ていえ

まくそ光ゆる。

南　えとハ形容（ミナモ）と云義なりなしと云ハ義也

こと納めさく名とかう。南方ハ水気盛と云義也。

西　ハいてしと云

義也。いを略ずさくましと云ハ日月いてしくと云義也。南方ましし

年義なしと云ハ花なといつる同義也。

北　きハ張りを極る也。たハ

る張る也留る也日月東より出て南に廻り西より用り北より張り極め

くと云ハ子丑の時なる張る方と云義也。是を天地の四面と定めて

四面（オモ）と云。わハよの縁る也。ヤハ方（ヤモ）ハ方面さく子丑寅卯辰巳の方

を手ねさく作面と云也。十二支の名義ハ下歳時之部まいり。

天地を始めさく東西南北日月五星男女名れ對ふれ世之形也を

一方を行と云。縁れむ久るものこの方なれハ也。

歳時之部

歳

今年　去年　一昨年　百年　千年

年　とハ止停る也留遠る也。しハ少停る也。人分よ止る私衆人各

留遠る数さく文ま停る私ハ少ずつ。すくとしと長く千年の也

ゆ矢の如し。此義をたくらかさく疾（シ）ハ病也。今年（コトシ）こハ細うよ

指定むる也。是武ホのこよ同しを年を細くよさし宣ありくことし

と云。去歳（コノトシ）ハこずれの約すれそとなるこすハ来也。再び来

方よ祭ると云義也。一昨年ハ中ハ打つれの約。祭り続祭る

と云義なるをつれを行りく打と云。是よ続く祭りし子也。

を年のわくこそるも れたるく こゆる物よ 萬年 と云也 つ の物
樣を知へ とるハ 年よ 伯しそいつる也 武西をとく 也 ハ 古 の 後也
れと 也 へき也 武 年 西 年 を 陽 の 編 しそう 百年 千年 と を と也
と云ハ と 元 の 伯し 元 せ と 移る 年 し 年 を 集 て 云時 と也
二と也 七と也 十と也 廿 と也 百 と也 子 と也 丑 と也 寅 百 子 ハ 数
を 集めて 云 也 せ と 約めて 日 月 の 迫る 義 を 会 そう

時

子 丑 寅 卯 辰
巳 午 未 申 酉
戌 亥 春 夏 秋 冬

時 と ハ 振留 也 き ハ 振極む 也 夜 夜 二時 一時 々々 を 振り

を極め 考 夜 秋 冬 を 節 よ 出 る 私の 振り を 極む と く と き と 考 く
子 ハ 振り 振 極む 也 日 子 る 振り 振り 振 極む 時 也 よ く 初 ね と 也
丑 う と 動 発 る 初 を 振る 時 と 云 也 ね と 振 く 極 し 日 の 極 く 動 発
る 子 を 振る 時 也 寅 と り 行 と 云 也 り 行 を ら と 約 く と ら と いへり
日 西 る む る 振 く 振 る 時 也 卯 日 天 よ 動 発 る 時 也 辰 子 の 地 辰 よ
振 し 日の丑寅卯と登りきて七七天子登り治る と 云 也 た ハ 地 也 つ ハ 治 る 也 子 の 地 辰 よ り 登 り く く 天 よ 治 る
と 云 義 也 龍 の 名 義 も 又 振り 巳 ハ 天 よ 納 り 止 る 時 と 云 也 午 と
う と 何 の 約 と あ を 約 め く ま と い へり 日 光 熟 し る 時 と 云 義 なり
未 日 治 る子 を 天 地 の 二 方 よ 領 る 時 と 云 義 也 つ ハ 治 る 也 じ ハ こ
方 を 領 る 也 申 ハ 去 也 日 西 よ 去 時 と 云 義 也 酉 ハ と を り と 云

義なるを(を)ハ(と)の義よりあれたいそきる也止り居と云事也日のいるさ志ハしあ山より出まれる形容也山ハ入て日の形をえすゆゆゆゆる時を

[illegible] と云いぬハ遊也日西に出て早く駆る時也 [illegible] ハ日光の西に出て傷りまて白ひまて消る時也式十二支ハ方ヨ對ひて義を定し名也さるを皇祖十二時ヨ配当して子之時午之時ハ子也寅卯ハ之ヨ

編あてるハ上ヨ下ヨ[illegible]る義をあらはすもの也

[illegible] 春 ハ張也草木芽を張也張ハ(た)生と云事也(た)ハ義也る之義ヨ

なる之義再之初まて新く新く業也発し本のそも常態なるも此之義

延て[illegible]る時ハ(む)生と長也三月ヨ[illegible]る名義也 [illegible]

ハのあつと云本義なるを[illegible]のあをなと約めて夏といりの(の)ハ伸

る也廣く延く也(あ)ハ張ハ[illegible]也(つ)ハ泊也[illegible]三月を[illegible]

生てる草木の伸て廣く延ずる山陸の形容を(な)と推留免

推留て(つ)と果しくなつと長く [illegible] ハ飽也五穀の草実の上也

る張ハ[illegible]相の張り十分ヨ実詰る時なれハあよと長くよく実詰と

しく秋津島を秋津洲おいて [illegible] ふハをあ也(ゆ)ハ震動る事り

[illegible]秋をへて[illegible]来る月日の働ヨ上て一面来復の時を

待て再び震動る時をとく発と八号也[illegible]の[illegible]を[illegible]ハ

式義なるし四時各三月名を改る事

睦月　如月　弥生　卯月　皐月　水無月

文月　葉月　長月　神無月　霜月　師走

睦月（むつき）　む　八雲立むること天文の歴定めつる月すなわち天下政をなす
事を歴定る量りの月也農工商の上も又終り一年の儲い元日を
とそよくむつぶと云　きさらぎ　八木之きとと云義也之八政する也　み穂
とる稽の之を爾る月と云義也　やよひ　いやはひのやはをよと紹
めくよひとつへりあてる字よく立てりさらきし稽の也弥生
生る月なりと云義也　う月　動発る月と云義也之動発るものを
五穀也本実也火気也　さ月　さい穂り環く也倍る也之穂り倍
ふものハ五穀也本実也稽穂也　ゑあ月　木の気やことのへる月也
ゑ月　水気之月と云義也等水水気なき月多れハ也や気の蓄り
よ蓄る月也　ふ月　ふ　ハをむ也　こ　ハ紹り止る也五穀も本実も

五月六月とをこ来く寄よ紹り止る月と云義也　む　よ物ら也
くふむ月と云ハこうの紹あるく　こ　の動働く往也　こ　む　を暴
てふつきともいう　ん月　ん　ハ暴逆る也五穀の上を年の暴山を暴
逆る月と云也　なつ月　なつあ月と云義なるをぎあを紹めく
が　とよりなぎハ薙也和也稲苗薙形なる月と云義也長の字ま
つ和へのハす　神（カミナツキ）な月　な祝さまくなれと云ハすあ子月の名よう　う　と
冠をくくれつきと云く　う　ハ也也　こ　ハ水也火気も水気も　な　と
推崩りて世なすと云義也等未の上花塔なれハ実もなくれや
の気花稔る月と云義也神な月と云ハ古人の伊ふ云ありう
長月（ミミツキ）　十月を水月と云ハ潦（シミオフ）る月と云義なるをこれをも　も　と

紀あらくたつる月とのりこを気方よりしを警る月也と云義也 ちハす

メ紀る也 (た)ハ天地也 (す)ハ集る也天業も人業も年紀る和日々を

要ず月々を要ず年あり和歌を以て寄る集りてやむ一年のいろをむ

月を紀り月々を紀月々を要ずく 正月を集りと云義也 師走と云ハ

歌れ書也月の名ハ皆本五穀の上を定むるわなりを三月十二月の二月

ハ五穀皆本のを紀る故なり千人万人なるなる月名れハ人ほを

ゆるらなる月名れ人ほを

ゆるらなる一月三十日々々ゆるり名なり

朔日　二日　三日　四日　五日　六日

七日　八日　九日　十日　廿日　卅日

晦日

名五　七

朔日 日本ノ月ノ名 と云義也一月を年又部と云義也 (い)ハ(き)の数をあらはす

ゆる也月三と云義也と云ハ皆悉なし月のゆる日ならハこを行

らあふつゆより千日廿日三十日より紀りく (う)と義ふるハ日光也 (ひ)ハ

日の字名ゆしく (う)と義ふるハ一日ゆる 下じます白ひ也光なり

よく (う)ハ光輝く之義也と云也 二日 (ふ)ハ重也 (つ)ハ続く也義ふる

也泊る也 朔日 をこ紀よく泊る日を定めこ紀ふつうと云 三日 (み)

ハ紀り止る 也日月星天地世を紀せハ 紀る者等ハ之の数を (こ)と定めく之日と云 四日 (よ)ハ紀

命る也 之を定数とこそ之ハ紀命れる日なれハ四日と云 五日 (い)

(い)ハ紀り止る也 地ハ五之数を動止る例ゆく木火土金水を紀る五

味五色五音ハ皆紀り (い)ハ五音の動止るわなれ 五之数を義へ

果てくいつかとそう。六日 ㋮ハ歴宣むる也量る也。三の数は天地之生数也。六の数は人の歴生あるく量る数なれば。㋯と指ひて一時表
表り天地より通ふ数とそう。七日 なハ推留推分る也。㋮と歴宣めし
数のごとく。既生なり推留れる数なれば推分てぬと指ひてうぬハ歴
之美能ゑ之宿也。八日 八弥動養る日と云義也。やハいやを略う ハ動
養る也。なぬと歴そうし日の既活動養る日と云也。九日 こハ細也小
也。ぬより八やうく細くなる故集めて養る歴そう日と云義なり。十日
と ハ振留る也信更る也。等る也。をハ動を養る也動を指ふ也。一とり
九を歴そう数十なる中ゆく是より再び外を養る数を指ふと云義なり。
十のを ハと の歴ゑを引出くいつかなり。廿日 たつハたちうの略。

たちを つ 略めてたつうといふり。廿日 動養る日と云本義なりを つ
と指れ分へて千義を治せり。たつハ再び十三数より高るとも云義
なり。卅日 う ハ外より陰を養る陰之義。陽之何也。西洋本義歳も
云わるまいつるうかく。三十日八卅日の外より陰。罕の内より陰と陽しく
いつる也。四十 五十 六十 七十 八十 九十 皆指り。百日と云
数字集りくと云義也。是より陰を ほ を等ふ。五百日 八百日 ホ也。
ほ ハ上より既なる也。陰を等る也。大数の上より既生なる義なり。晦日
つ 込陰と云義なるをこそく。も を略めく つこもりと云。つ ハ等ふ
る也。陰る也。一月三十日等へこり数の今日より込。果るとも云義なり。
も と略めく数字の義とそう。又

今日　翌日　翌々日　明日　きそ　明々日

今日（ケフ）（け）ハ消ゆる之義也。修之之間（ふ）ハ全くなくなる也。日出て入る迄の時々刻々唐ゆり全く不定なる也。月も又移り行くよく定なきをみて行と云。あす ハあさつの約さう（す）と云る。あさハ明也。明れば動発る。よりてあすと云（す）ハ定しなの義にて七日のうしろ動発る不定日也。あさて ハあす果と云義也。すハをさ（さ）と約りてあさてといふ（さ）となりて日数の積りゆきまを白いきて。きのふ（き）ハ昨日の意にて昨日ハ伸延る也。七日の限の翌日ハ伸をこしを顧てきのふと号。きぞ ハ限りそと限る後すの義也。人の世ときやなりハあ〳〵と叫ぶ時ハ急なる。よて限りそと後すも也。明々後日（つ）ハ明後也。

扨也。明也一時等と云ふ等し此能やよ（れ）なり。又

晩　曙　昨周　かつれ　明　明日

夕　宣　夕　夕べ　夕げ

黄昏　夕礼　夕礼　宵　よべ　よもべ

枕　よる　夜中　宵　夕宵　晩宵

六月宵　夜中宵　紅朝

暁（アカツキ）　夜くハあうのとおといふ。あけあと云義なるをけあを（う）と約めるあのとおとをとり。とよハ時也。明ゆる時と云義也。（ろ）と約めるく時の白ひを食ゆきり。（つ）ま明らりきくあつつとをハとうの約めるく（と）神祭ると云義也。宣行の二時より降りて云義也。あうつう

きと云義となりて明績濤と云義なり　曙(アケボノ)八暁の名に用られて拘
のかのくまくゆる時を云和(リコ)を指て明ぼのと云也　朝朗(アサボラケ)八万葉集中
朝開と書てあさひらきとよませて暁に漕出る舟の歩に詠るを
てかりを朝開のびの声を不の表に轉して不とし　けと読ひ久
て朝ぼらけとよめり　けハきえ之絶にて朝花きぬと云義と語り
けと須めて清浄り朝白ひを含めける至築に朝光満りし舟
の跡なき海を毎に朝ぼらけことよしみの跡の白浪と詠
めて入られしよを称すべし　暁(アカツキ)時の夕を対ふ名にて暁の
くらきを称を云也　かはたれ　古説の如く彼ハ誰と云義也黄昏にむ之
る名にて暁のくらきに人のこえかぬるなり　朝(アサ)八日光照ハ未

積り積りて万物を照ハすゆへ其事を現ハすと云ふ名義也　朝明(アサアケ)ハいはくわる
字のごとく朝明と云也　さの顔よま　あを合せていひける也　朝(アシタ)ハ日
光照ハれし下と云義にて日光照ハれて後士の時に及ぶ迄を行ふ
と云　しハ後る也　たハ空ら、なる流る也留る也　万葉集巻十四東歌に
あせと云ひつさ朝にあハなくまよひきてよひ朝ハ朝にあけぬしとある
もあり朝のあしたの　あをはぶきてしたとのミいへる也　本居大平か説
にても万葉の解にしたといふハ明と云ふ義なるとあらハすと云へる
遠くあらず　昼(ヒル)　一日を日に貝く其日の中央に純るを昼といふ也
夕(ユフ)　ゆハ中にゑる也　通ふ也　ふハ宇も也　昼夜の中に起り通ひて
まこ行と云義也　朝に對ふ名にて朝夕と読ひていへり　夕べ(ユフベ)ハ朝(アシタ)

に對ふ名なるく来の時以後をいふ也〇べハ横より退く也〇夕暮ハ明暮に
對ふ名也〇夕べの暗くなれる程也〇夕げ　夕ぐれの名を約めて〇げとい
へり〇げと云ハ非也朝食夕食の〇けハ[illegible]を云也〇黄昏　古説のごとく誰彼
也かはたれはむかへて夕ぐれ人面のみえわかぬ時をさしたる也〇彼孔　〇彼孔
〇なと結ひて云ハのあるの約まく彼伸彼孔夕伸彼いふことゝ云義なる
を〇なと約めて推量より〇背　〇よハ背也〇ひハ日也背とも日とも書ち
[illegible]なる也〇よべ　〇よハ背也〇べハ退て退く也〇よんべ　ともいへり〇背
〇よハ依命るゝ義那邊ぎ[illegible]之義[illegible]詞日くるれハ人皆家に[illegible]
從數を[illegible]ても[illegible]ても皆依命りて[illegible]るぞ世の[illegible]ひなるその
[illegible]る[illegible][illegible]れくる物[illegible]すくよまく夜とも書く〇夜　〇るとは[illegible]めて堂

よむぐれより〇夜半　ハ夜[illegible]ると云ありく夜之時也〇闇　ハ止なり
月の御出ませる稍也日月の御出まさぬハ人業も止まる故に御出ませるも止めや
むよしやことゝ書く〇夕宵〇[illegible]宵〇丑宵〇亥宵〇亥の宵

頃

ころひ

〇此　〇こハ細也小也〇ろハ也〇ろハ廣很る也廣く指定むる也春夏秋冬
四時を分れて細也小也一年十有二月を分れハ又細也小也
日を分れてよく細也事を分ても又同し〇年比月比日比以へ
りされ也四時を日と年月と年を[illegible]ませるねハ〇ろと廣く指定
める〇比ひ　ともいへり〇ろひハへれひと云義なるをへ[illegible]を〇ふと約

めくほひといふ。おひハ追也。主所退ぞ後行く主所を追て云也。

古（いにしへ）

古 いにハ去也。しハ行る也。へハ種也。年月のいにし方を行て種ふ

と云義なり。

南日（そのうち）

南日 そのハ其なり。うハ日也。ミハ絡り歩るなり。其一ありしる業

の上の。月日定なる和をいひいつるまつそのうちと云。絡り

て八年の上るもいふ。そハ心しる南昔と書ふう。

昔（むかし）

昔 むかしハむくあ〜と云義なるをくあをうと約めくむかし

と云。むくハ向也。あ〜一方の為也。あをを名よ行く向和をむかし

と云。かハ和也。しハ行る也。

むかしへ

むかしへともいふ。へハ方也。ヱクヘ 行方の。へま

ひと〜。

現（うつ）

空（うつ）

玩

う ハ動く也 発る也 つ ハ後る也 泊る也 生れ出る 発りて動働く

後る程 況也 うつ ハ況と也 直言なるを後の う ハ つ の類なる 為れる

う 物を略して うつ と云也 うつら〳〵乃直言 うつをこの枕詞 又

て世界 今日 翌日 おつて 百八十本 況して ことと云義なり 況 二つを

後る身と云義なるを たてらう をたてらうつ をこうつ せこともいひうつ

そこハ況も 元も身 ほと云義也 うつをこハ 迫り来る 身と云也

玩

ハ況の派 後 つ の語況ハ後之義より 元ハ泊る 之初 と云より

生物 遂に果なる 物 それ動働くも果れハ 略なし それを 元

と云 況 元 性 来 ハ 形 ようつ の世也 元 ウツ 元 ウツ 不 の 法 重 ろ と云

ハ元の 度 を 後 る也 ほ といひ ハ元の 度 形 れ る也 うつら〳〵と

重 ねる ハ況 後 元 後 定 め て 定 れ なれ ハ ら と 結 ひ う

影（ケ） 陰（ケ）

日影 月影 人影

山陰 本陰 物陰 影陰

夕陰 水陰

影

う ハ日 ひく 白 也 光也 げ ハ 消 ゆ る 之 変 後 之 義也 日 消（キエ）

と云 民 なる を き 元 を げ と 約 め く げ と ひ り 月 日 の 光 消 り 変

なれ と 来 や く よ ハ 雖 消 余 度 を ものなれ ハ ひ り く げ と 結 ひ い う

陰

も 同 義也 それ と 影 ハ 略 ひ く 付 陰 ハ 嗜（クラキ） よ 付 の 義 の あ り く

日乾　月乾　人乾　おいとやくるこゝろまもる付　山信　本信　物信　四信

あさ信　夜信　おいの時ゝ付くゝ時信の義なり

氣色（きしき）

氣色　（け）ハ気也猶也（し）ハ領る也（き）ハ張を極むる也山也河海星月花の上なくこゝろ和ら猶れる義を領ゝ和を（き）と張り極めくけたきとゝ也

形（かたち）

容色（ようしき）　容貌（ようぼう）　形（かたち）　凡俗（ぼんぞく）　様（さま）　姿（すがた）

形（かたち）ハ上方の和まいるゝ為く（か）ハ天也（た）ハ地すて世ゝ貌を形ハ

せしあの姿の地是をかまこて世ゝ形れる物の宮市れる和をかゝちと云（ち）ハ落る也天地落と云義也（カタリカタル）語之詞ハ式名の物ゝ仕る物形（カタ）ゝと云義なるを（あ）ハ地の顔ゝよりそ形ゝいたる也天地の物ゝ俗るるの姿ゝなりけ

容色（ようしき）（ミ）ハ絡り出る也ゝ人ゝとの上ゝ絡り出る也（め）ハ三ゝ之絡まくゝみえと云義なるとめと絡ゝくゝみめと云（め）ハ三ゝ之約まくゝ者なれハ男を引まをめと云継ゝ会ゝ市片絡り人の形ちの云愁の界也

形（かたり）ハ上方の絡人の分まる物の上ゝまゝと云義なるをゝあを（な）と絡のくゝなりといゝり（な）ハ推猶る也ゝ人ゝ物の上ゝ推猶る和を楽しくゝなりと云

凡俗（ぼんぞく）（ふ）ハ立り地ゝ市ゝ里ゝゝ居ゝゝ風俗を形ゝゝ和りとなゝく

ぶりと振りて云ハ古風俗の振ふを也

掠（すに）

さハ振ふ躍く也

ま ハ古万之義任すの和ふ也人の世ふるを振り躍く不思議なりしこれと 帝の御世より下れるを遠天の任ふるなしこそ彼多福を也是世のきまりと云一人一相一事一業ふさまなり

姿

す ハ元しの之義ふハ形也 す と冠ぶせれハ振りてなり人の上も物の上も新のあらすを手ふとふれなくもしの形をすがたと云く

げ と振りて云ハ古人を物の為に成生養ふ之義とせり

癖（クセ）

く ハ付ふく石辞也

せ ハ迫ふ也人の為人の世ふ付ふて雑きすともすれせまりくるを物ひの上業乃ふ一をきしく

せとなつく

夢（ゆめ）

ゆ ハ寝ふる也中ふ記ふる也面ふ也 め ハ見えを約人寝ふる中ふ寝記ふく限ふ在しふ業の面ひを見えくるを夢と云く限ふの中ふ面ひを元と云義也云く ハ

いめ

ともいふ

い ハ寝也振ふ付て云ふ

とふ義なり

幻（まぼろし）

幻

ま ハ目也目眩しと云義なるを わ を略きて名となり目眩なるを形を観ると云義なり此義をそこらうをてさる事をこるを勝なる業する者をまのいろ一とものいふ

わもみ
俤

俤ハ思ふよつきくこゆる形を云也只ふの(ふ)を略おく思形と云ふの形ひを略くハ詞をふとする之定格なり

わと
音

音(れ)ハ外よ響る也(と)ハ止る也一説外よ響りて来止るる形なり

ね
音　声　からと意　からさつり

ぐ
音　出義　天義

音

れと云ふ音也(ム)ハ音を止る和韻也音韻之義分是也　白王国まていハれとひきと云人のあ云も名歌の名比音也訓云の形ぬを音なり人のとりあを音やすと云ふ

音ハそ音の除く

除くく出きを云麻の音也の音ハ云も又也人も音よ略と云り活音の除く異よ除て出也

声ハ誠之物用和云和人よ越人のこ云和あよ越るう形よ丁意と云(意)(元)元よ達へるハ音の理きよ除ひく面ちる也(意)も(元)も異義相ふハ和ハ別義ふる字なし

から多　異玉の多と云義也いく形る多とも性分くよをのら多とふり異玉の人のあ云音ハ性分くよあれハ比しく云也

からさつり　とふ云ふり

ぐ
音　(ひ)ハ長くく也(び)ハ母也一説ハ母よ一説ハ不徹音を云ふ俤極めくひくおと云

山義　ハ山ひぐき和とふなるを上の(ひ)を略よき和を(こ)と約めくくとやり一之義よい今形義の義ハ行ふす家る文やよ除むなれ和の音の山よひくよ外よ

[天元] 八天すひてき物す者也。[コタマ] 八山岳す等
しく者す南りし物の岳ゑ者也。岳百と云義なり。(こ)八和也(九)
八南也者の物す南す岳ゑ者和。そ和すすく成八岳ゑ成八物岳
百と云義なり。(木)果をもらすこまと云。そを一之巻神之
部すいりこすす等るものとハとなり。

帝国図書館

国立公文書館
National Archives of Japan